



むさし走査線
かんべむさし
奇想天外社
(3/20刊・¥780)

著者かんべむさしが、はじめてプロ雑誌に登場したのは一九七四年、フル・タイムの作家になったのが七五年のこと。本作品集に収められた諸作は、以来七八年暮れまでに発表された、エッセイ、解説、小説、対談と、あらゆる種類の文章の集成である。ただ、その背景にある、かんべ流の視点は、常に変わらない。

たとえばエッセイ——仕事、酒、広告、アニメ、旅行、思い出、高校時代、食事、女性、友人、タバコ、解説（山田、小松、筒井）——などなどなど。

たとえば小説——さるかに合戦を題材に、七つのお話を創ってしまうという「クッキング・ノート」——などなど。

たとえば対談——同じころ、SF作家クラブに入会した、山田正紀、横田順彌ら、最若手との対話——など。

以上、とりまけて四十編、"バラエティ・ブック"という帯の引き句そのままに、作家かんべむさしの、さまざまな一面が、随所に溢れる一冊である。そこから、作家としての立脚点、ものの見方、苦しみや人間関係等も、見いだせるのである。（俊）